



2023年度 CAREER SUPPORT GUIDE

就職活動支援ガイド



保護者版



川村学園女子大学
Kawamura Gakuen Woman's University

<就職環境の変化>

保護者の時代とは様変わりした現在の就職環境について

就職環境は年々大きく変わっております。社会状況の変化で就職状況は短期間で大きく変わり、昨年までと同じようなスケジュール感覚では成果が得られない状況もしばしば見られます。ここでは現在の就職環境をまとめました。

● 就職活動の変化と今後の見通し

長かったコロナ禍もようやく出口を迎え、企業の採用活動は活発化しています。2021年より低下していた有効求人倍率も、2024年卒(現4年生)では1.71倍とコロナ禍前の水準に戻るほど回復し、2025年卒(現3年生)はさらなる「売り手市場」になることが予測されています。さらに2025年卒からは「採用直結型」のインターンシップも公認となることから、これまで以上に採用活動の早期化は加速する可能性があります。また、コロナ禍以降に始まったオンラインによる採用活動が定着化していることから、合同説明会や、企業説明会・面接等をオンラインと対面で実施するハイブリット型が主流となっています。

求職者有利な「売り手市場」とはいえ、流動的でスピーディな採用活動の流れについて行けず取り残されてしまう学生も出てくると考えられます。

複数の内定を獲得できる学生となかなか内定が取れない学生の二極化の拡大が予想されるとともに、企業研究や自己分析が不十分であったために、内定はもらったものの納得のいかない不完全燃焼な就職に終わることも懸念されます。

今後も経済や社会状況の予測は難しく、労働市場はますます流動化していくと思われ、新卒一括採用以外にも中途採用や通年採用に力を入れる企業も増えていくでしょう。また、興味を持った学生に企業側からアプローチする「ダイレクトリクルーティング」や「スカウト型」も広がっています。学生は広い視野を持って採用活動に挑む必要があります。

川村学園女子大学では、このような環境の変化にも対応できるサポート体制を整えておりますが、保護者の皆さまも現在の就職状況を把握した上で、お子さまの身近な相談相手となってあげてください。



出典:第40回 ワークス大卒求人倍率調査(2024年卒) 2023年4月26日発表

● ついに「採用直結型」が公認に。重要度を増すインターンシップ

インターンシップ(就業体験)は、就職活動において学生・企業等の両者にとってさまざまなメリットがあると言われ、ここ数年多くの企業が実施してきました。2025年卒(現3年生)からは就活ルールの改定により、企業はインターンシップに参加した学生の情報を採用活動に利用できるようになります。情報を利用できるインターンシップの期間は5日間以上(半分以上が職場などでの就業体験)ですので、2024年卒(現4年生)では5日間以上のインターンシップをメインにする企業も増えました。また、2026年からは専門性の高い人材の採

用活動開始の前倒しも検討されており、2025年卒でも選考を早める可能性は十分に考えられます。人気企業のインターンシップは競争率が高くなり、参加できないケースも増えてくるはずですが、従来通りの1day仕事体験等も多数実施されています。2025年卒以降の学生は新ルール改正をしっかりと理解し、大学発信の情報を捉え準備していくことが大切です。ますます重要度が高くなるインターンシップ、保護者の皆さまもお子さまと一緒に情報を集めることをおすすめします。

※インターンシップ等詳細についてはこちらをご覧ください。

「令和5年度から大学生等のインターンシップの取扱いが変わります」



● 「隠れた優良企業」の発見こそが成功の鍵

採用試験のオンライン化によりエントリー者数が増え、書類選考や筆記試験のハードルが上がっていると思われる。特に大手企業はよりその傾向が強くなっています。

企業研究や職種研究が十分でないまま、狭い視野で世間の価値観に縛られた就職活動は危険です。内定はゴールではありません。これから長い間働くことを考え、徹底した企業研究を行い、自分に合う「隠れた優良企業」を発見することが成功への鍵となるはずですが。

ただし、隠れた優良企業なら採用されるかといえばそんなことはありません。中小規模の企業は、長く勤められる人材をしっかりと育てていく気持が強いため、

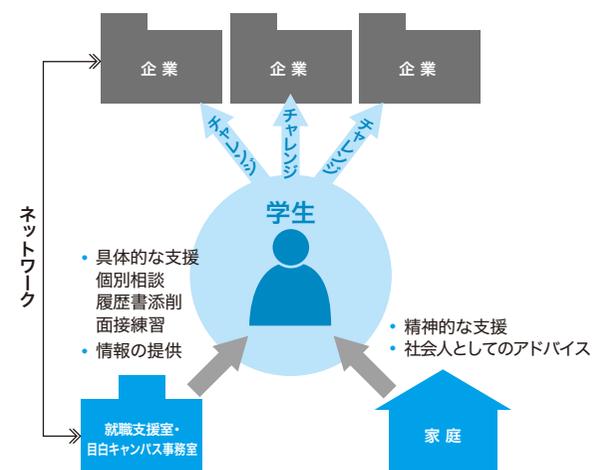
さまざまな角度から人物を見極めようと、選考では多様な試験や面接を実施します。選考を勝ち抜くためには大手企業、中小企業のいずれを志望する場合でも自己分析が欠かせません。

自己分析とは、自分は何をしたいのか、何ができるのか、長所短所、特徴を把握することで自分の強みを見いだすことです。そのうえで「自分の強みを活かし、成長できる企業はどこか」という視点が重要になります。自分の長所短所などはなかなか本人ではわからないものです。お子さまの身近にいらっしゃる保護者の皆さまのアドバイスが不可欠です。

● 保護者の方ならではのサポートが求められる

めまぐるしく変わる就職状況の中で戸惑うお子さまには、保護者の皆さまの理解と支援が必要です。もちろん、過度に干渉をする必要はありませんが、お子さまが社会人として自立できるよう協力してあげてください。

現在のストレスの多い就職活動では、精神的な支援、最も身近な社会人の先輩としてのアドバイスがお子さまから求められています。自らの人生を振り返り、「なぜ働くのか」、「仕事とは何か」を伝えてください。お子さま自身が気づいていない長所も、成長を見守ってきた保護者の皆さまならアドバイスできるはずですが。



※詳細は大学HPをご覧ください。

<現在の就職活動スケジュール>

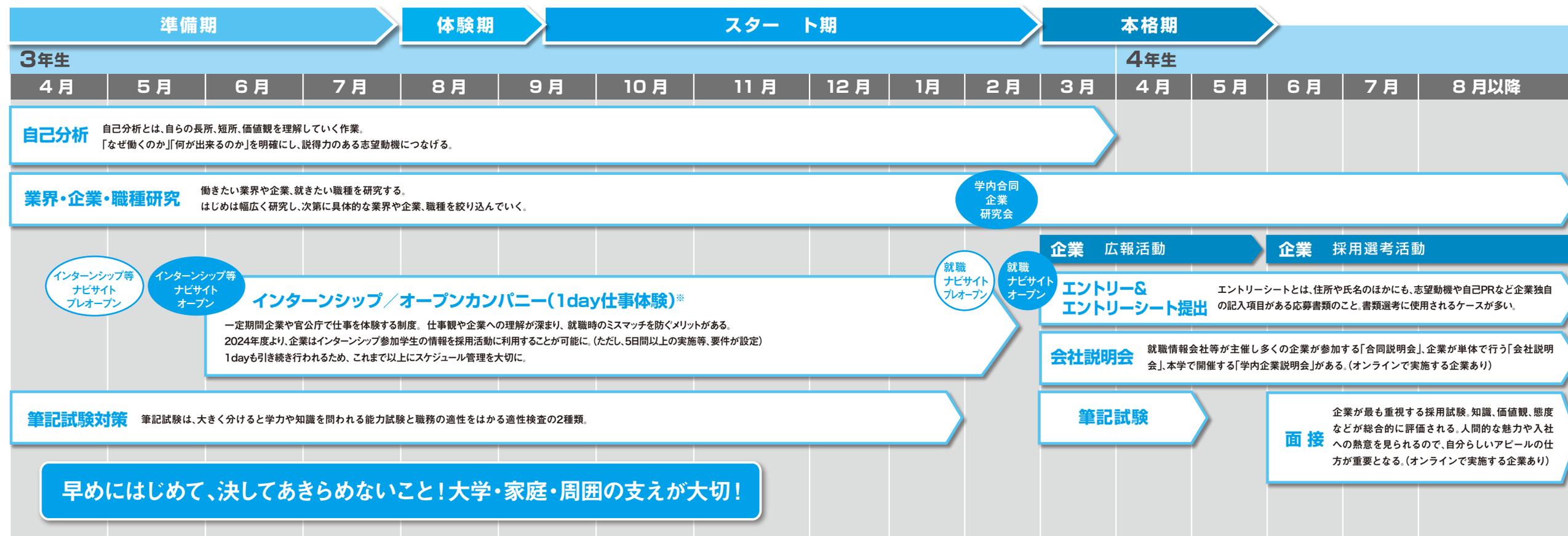
現在の就職活動は準備期間を含めると1年以上の長丁場

現在の就職活動は複雑かつ長期化しています。

このページでは、現在の就職活動の主なスケジュールをまとめました。

今、お子さまがどのステップにいるのか、どこでつまづいているのか、把握できるようにしましょう。

■長期間にわたる就職活動のスケジュール



*オープンカンパニー(1day仕事体験):就業体験のうち、1日のみのコースをオープンカンパニー(1day仕事体験)と呼びます。

●早い学生は低学年次から。内定までの長い道のり

低学年次

本学では1年生後期からキャリア教育(選択科目)がはじまり、自らの職業感やキャリアプランを明確にしていきます。早期から就職への意識を高めていくことは重要であり、そういった意味では、低学年次から就職活動はスタートしているとも言えます。

3年生 4月～2月

就職関係のガイダンス参加や、自己分析、業界・企業研究、筆記試験対策など就職活動への本格的な準備を始めます。また、3年生の夏ごろには、企業で働くことを体験するインターンシップ等が盛んになります。様々な知識を身につけ、理解を深める大切な時期です。

3年生 3月～卒業まで

各企業の説明会が開催され、具体的な仕事内容を理解していきます。志望動機や自己PRを記入するエントリーシートや履歴書の提出も始まり、実質的な採用試験がスタートします。また、書類提出に合わせ、大学での個別相談も増えていきます。

書類提出後は筆記試験・面接も始まり、特に6月以降

は本格化し、学生は多忙な日々を送ることになります。多くの企業がこの時期に内々定を出すので、夏休みが始まるころが就職活動のひとつの区切りになると考えられます。

一般的な採用スケジュールの他にも様々なスケジュールが見られます

今まで経団連が発表していたスケジュールの指針が撤廃され、現在は政府から広報活動開始が3月1日以降、採用選考活動が6月1日以降と要請されています。しかし、中には独自のスケジュールで行う企業もあります。

例として、通年採用を行っている企業、3年生の秋ごろに早期採用選考活動を行う企業も一部あります。逆に4年生後期から本格化する企業もあります。

仮に就職活動前半までに内々定が取れなくてもチャンスがなくなったわけではありません。内々定を得られない事で、ストレスを抱えたり精神的に不安定になる時もあるかも知れませんが、そんな時こそ保護者の皆さまの適切なサポートが必要となります。

就活は、保護者も不安。だから知っておきたい。

保護者のための 就職活動 Q&A

保護者の皆さまの時代とは大きく変わった現在の就職活動。わからないことや聞いたことのない言葉にたくさん出会うのではないのでしょうか。そこで、一部ですが保護者の皆さまからよく聞く疑問をまとめてみました。お子さまへのサポートやアドバイスにぜひお役立てください。

Q 企業はどんな学生を求めているのでしょうか？

A 「自ら動き、考え、チームで働ける人」です。

企業が求める能力（＝仕事ができる人として必要な能力）を分析した指標として有名なものに、経済産業省がまとめた『社会人基礎力』があります。ここでは「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」

が重要とされています。こうした指標は各企業でも参考にされています。お子さまと一緒に、これらの力を培ってきたか、企業にアピールできるエピソードがあるかなど、ぜひ掘り起こしてみてください。

Q よく大卒新入社員の3割が3年以内に離職すると聞きますが、早期離職しない会社選びの方法はあるのでしょうか？

A 就職先は会社で選ばず、「したい」「できる」仕事で選ぶ。

3年以内に離職する若者の割合が中卒で7割、高卒で5割、大卒で3割。いわゆる七五三と呼ばれる現象です。その原因は仕事のミスマッチ。人気の業界、職種、企業にこだわり、勝手にイメージを膨らませたまま社会に出て、はじめて現実とのギャップに気づくわけです。早期離職を避けるためにも、人気だけにとらわれずその内容を良く理解して、**自分の力を発揮できる自分に合う会社**であるかどうかを見極めることが大切なのです。



Q インターンシップに参加すると、その企業への就職は有利になるものですか？

A 2024年度からは「採用直結型」が公認になり、その傾向はますます強くなります。

インターンシップの本来の目的は就業体験を積むことによりミスマッチを防ぐことにあります。しかしながら、インターンシップの実績を採用活動に利用する企業が少なくありませんでした。2024年度(2025年卒 現3年生から適用)から制度が大きく変わり、企業はインターンシップに参加した学生の情報を採用活動に利用できるようになります。これにともない、これまで以上にインターンシップの重要性は高まるはずです。就

職に直接結びつくだけでなく、実際に現場で働いてみることは就業観を養う上でも重要な経験で、社会勉強としても非常に意味あるものです。5日間以上のインターンシップと従来通りのオープンカンパニー(1day 仕事体験)に実施方法が分かれます。志望が明確な場合はインターンシップにチャレンジし深く学び、未定な場合はオープンカンパニーに参加し企業・業界について学ぶ事をお勧めします。

Q 面接でうまくいかない子どもに、どんな対応をすればよいのでしょうか？

A 学生の多くは、何社もトライしています。前向きな気持ちを持つように伝えてください。

就職活動で学生がエントリーする企業数は、平均で30社～40社になり、内定がもらえるまでに10社以上面接すると言われています。ほとんどの学生は何社もトライしているのです。ご家庭では、お子さまの活動状況を把握し、皆さまの仕事観を伝え

りしながら、就職支援室・目白キャンパス事務室へ相談に行くよう勧めてください。現在はオンラインでの相談も実施しています。お子さまには常に前向きな気持ちを持つよう伝えてください。

Q オンラインでの説明会や面接は今後も増えていくのでしょうか？

A 増える傾向にあり、またこの先も続いていくと考えられます。

新型コロナウイルスの影響でオンラインを活用した説明会や面接が急激に増加した就職活動ですが、2025年卒(現3年生)以降の就職活動もこの傾向は継続していくものと考えられます。オンラインでの就活が当たり前になれば「デジタル・スキル」を磨く

ことと共に**家庭内のインターネット環境を整える**ことが必要になります。PC、カメラとマイク(PCに内蔵されていない場合)、Wi-fi環境の整備、更に自身の顔を明るく見せるための照明など必要なものの購入では保護者の皆さまのサポートが必要となります。



学生一人ひとりをしっかり応援します！

本学では、一人ひとりの将来の希望に対応できるように、
個別指導に力を入れています。本人の特性・主体性を重視しながら、
最適な仕事を見つけるため、「個別面談＝作戦会議」と捉え、
学生に寄り添った就職支援をしております。

本学では就職支援室・目白キャンパス事務室での個別相談をはじめ、
就職活動を支援するプログラムが多数あり、地域や企業にとって今後の発展に貢献すべく
魅力ある人材となるよう学生を導きます。

川村学園女子大学

【我孫子キャンパス】 就職支援室

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133
TEL04-7183-5553 FAX04-7183-6742

【目白キャンパス】 目白キャンパス事務室

〒171-0031 東京都豊島区目白3-1-19
TEL03-3951-0111 FAX03-6908-3411

E-mail: shushoku@kgwu.ac.jp URL: <https://www.kgwu.ac.jp/>

川村学園女子大学
就職・キャリアサイト

